



326  
235

岡山縣の真田



始





岡山縣の眞田

岡山縣眞田同業組合



326-235

# 岡山縣の眞田

## 目次

総論.....	一
外國に於ける麥稈眞田の沿革.....	二
日本に於ける麥稈眞田の沿革.....	四
岡山縣に於ける麥稈眞田の沿革.....	五
岡山縣麥稈眞田生産額.....	六
麥稈眞田收支計算.....	七
農村經濟に及ぼす影響.....	七
麥稈眞田原料并眞田製作工程.....	七
經木眞田の由來.....	六
日本に於ける經木眞田の沿革.....	六
岡山縣に於ける經木眞田の沿革.....	七
岡山縣經木眞田生産額.....	七





經木眞田の生産工程及工賃標準……………四一  
 麻眞田の沿革……………四一  
 岡山縣に於ける麻眞田の沿革……………四二  
 岡山縣麻眞田生産額……………四四  
 麻眞田工賃調査表……………四四  
 結論……………四七  
 附 録  
 岡山縣眞田同業組合……………四七

## 岡山縣の眞田

### 總 論

農村經濟論天下に喧傳せられ副業獎勵策朝野に論議さるゝも其聲の高き割合に其實の擧らざるは頗る遺憾とする所なり抑副業なるものは本業と密接の關係を有し而して本業に悪影響を及ぼすことなく資本を要すること少く何人と雖も従事し得べき簡易なる業にして而も収益は勞役を償うて餘りあるべく販路は廣くして永續的なるべきは勿論之に使用する原料の豊富なるべきは其主要條件なりとす翻て之を本縣下の麥稈眞田紐に徴するに原料は自産自給殆ど無盡藏と稱すべく善良なる原料を得んと欲せば多分の施肥と周到なる耕鋤とを爲すに依り土地自ら膏腴となり麥及び稈の收穫多く餘肥は從て稻作及び禾穀の多穫を來す等善果ありて惡果なく之に要する資本は僅にして足るべく農閑季に於ける餘業としては勞役の報償價格低廉の時たりとも優に餘りあるべく販路は廣く世界全般に互り而も其の需要永續的なること次の沿革の概要に依りて明かなり況や本業は老若男女の別なく學齡未滿の幼兒も尙且つ相當の生産を爲し得る極めて





簡易なる仕事なりとす以下少しく麥稈眞田の沿革及現在將來を論じ本業研究者の參考資料となさんとす

二

### 一、外國に於ける麥稈眞田の沿革

麥稈工術の沿革は由來茫乎として其の起源を詳にせずと雖も希臘の碩儒ヘロドタス氏(紀元前四百年代の人)が埃及地方に於ける紀行記事中に麥稈眞田の事項散見し又現に埃及の古墳墓中より往々之れを發見するに依りて推究すれば埃及全盛時代より希臘繁榮時代に當り西部亞細亞北部亞弗利加及び歐羅巴三大洲の地中海沿岸地方に亘り斯業の手工藝存在せしは事實なり然れども其用途は帽子にあらずして諸種の玩具提籠及び圓坐の類に屬し帽子用としての濫觴は紀元後二三十年の交自然の必要より圓坐を以て日笠に代用せしより變遷して所謂帽子製作の觀念を惹起せしものと如し而して麥稈眞田帽が始めて世に現はれしは十六世紀の半時の蘇格蘭の王女メリー佛王フランスに嫁したる時ローレンス州の農民が該種の帽子を戴けるを見輕快にして實用的なりとし紀元千五百六十二年離別して祖國に歸りし後特に同州より眞田技術者を招聘し自國の人民に傳習せしめたるも時流に投せずして廢れ又其後王女の子ゼームス一世エリザベス王

の後を繼ぎ英國に君臨するに及び再び之を獎勵せしに效果空しからず廣く上下の間に賞用せらるゝに至り殊に婦人に愛用せられたり故に其起原は佛國にあるも汎く世に流行するに至らしめしは英國にして實に十七世紀の初年なりとす  
其後交通の便開くるに従ひ麥稈眞田帽子は歐洲各國に傳播したり米國に於ては獨立戰爭以前より歐洲に倣ひて麥稈帽子を用ひマツサチューセツト洲の農民は一時眞田を編成したるも品質劣等にして歐洲輸入品の夫に及ばざりき然るに十九世紀の初年ナポレオン興隆の時代戰亂次で起り米國への輸入全く杜絶せしかば米國に於ても盛に眞田を編成したるも勞銀高く且つ原料の品質劣悪なるが爲め其後英品に壓倒され千八百三十年頃には殆ど廢滅に歸したり之に反し英國にては益々斯業に力を盡し英國工藝協會の如きは精良なる麥稈を産出せんとて賞牌並に金圓をコンネクチャットの農民に與へて獎勵せし程也き然るに平和克復後伊太利國は低廉にして良好なる眞田を製出するに至りしかば英國の其内業は十九世紀の半頃より衰頽に傾き伊太利瑞西及び獨逸の三國の爲に壓倒され次で千八百七十年頃より支那に於て製造を開始したるに依り獨逸も亦英國同様の悲境に陥りたり是に於て乎現今は歐洲にては伊佛瑞の三國東洋にては支那及び日本の兩國該品の主産地たるに過ぎず

三



就中歐洲産は優等品を産するを以て盛名あり支那産は品質粗悪なれども價格頗る低廉なるを以て歐米市場に勢力を有す

四

### 一、日本に於ける麥稈眞田の沿革

麥稈細工は古より我國に存在せしも帽子原料なる眞田紐に編製せしは明治四年に始まり東京府荏原郡大森村河田谷五郎なる人の創始に係る氏は當時横濱の町役人なりしを以て屢外國人と相接する機會ありたり嘗て外人の載ける麥稈帽子を見て大に感ずる所あり本邦に於て麥稈眞田業を興さんと欲し専心之が製造を試み銳意研究の末稍や見るに足る可き物を製し得るに至り明治七年横濱八十九番主米國人モリスに示し三千反の注文を得たり是日本に於ける麥稈眞田輸出の端緒なり

斯の如く最初の試注文は其眞田の編製甚だ粗笨なりしに拘らず好結果を得たるを以て輸出額を増加せんと計り麥稈採收の有益なると及び眞田製造の頗る有利にして前途多望なる所以を説き有志者に奨励を促したると明治十年の交時の清國上海駐在領事品川忠通氏が同國北部地方に於て製造せる麥稈眞田紐を米國に輸出せる状況を具し我政府に報告せし結果一般人民愈々斯業の有望なることを自覺したるに依り機運漸く熟し

生産次第に増加するに至れり越へて明治十二年の頃麥稈の漂白法を改良し且又原料の栽培及編み方に改良を加へしを以て外國人の嗜好に適することを得輸出上大に面目を更めたり

### 三、岡山縣に於ける麥稈眞田の沿革

本縣下に於ける麥稈眞田業は細原料使用眞田紐は上房郡を中心として其附近に發達し太原料使用眞田紐は淺口小田二郡を中心として其附近に發達し共に斯業發達史上の二大潮流あるを以て便宜上細原料使用眞田紐太原料使用眞田紐の二項に分ちて述ぶべし細原料使用眞田紐 明治十五年中上房郡長時任義當清國駐在領事の報告書に依り支那製麥稈眞田紐輸出の状況を知り思へらく之れ多額の資を要せずして容易に製造し得らるゝ有利の業なりとすなはち時の勸業主任郡書記板倉信古と謀り郡中の有志に説き金貳百圓を醸出し高梁町中村三平なるものを東京府下大森地方に派し組紐製造の業を習得せしむ三平練習七箇月にして歸り同郡の富豪中村源藏の贊助を得て業を高梁町に始め丸物平打眞田の製造に着手す是れ細眞田製造の起源なり其後年と共に技術巧妙となり五角七角其他の變成品を産するに至れり明治二十年前後に於ては縣の甲地乙處並に

五



香川縣の一部に於て其の製造を見たりしが幾許もなく盡く廢れて全く上房郡の獨占に歸し同郡は恰も本縣否寧ろ本邦唯一の本品生産地の觀あり

太原料使用真田 明治十六年の交淺口郡寄島町頃末勝吉なるもの偶々大阪の商人岸上紋藏の同地方に來り真田原料として麥稈の買入なをしたることあるに依り其の業の有利なるを知り同十七年中串田佐市葛川喜市及頃末久吉等と麥稈原料の賣買を開始したり組紐製造の教師を雇入れ九五平九七平真田約五十反を製造し同十八年自から携帶して神戸に至り外商十七番館に始めて之を賣却したることあり之を普通品真田の起源なりとす其後五角七角四菱等の丸稈真田より更に進んで割五平合五角等割稈使用の真田又は經木混入の紐若くは染色稈使用の紐及び各種の變成真田紐を製造する等技術上長足の進歩をなしたると同時に産額も亦年を逐うて今日の隆盛を見るに到れり

全國麥稈真田輸出額累年比較表

年次	數量	價額	年次	數量	價額
明治二十六年	一、二五三、四三七五	三七八、三四九四	明治三十年	六、七六〇、三八四九	三、八一、九一五五
明治三十一年	五、九六一、一二五	二、五〇四、〇〇三	明治三十二年	七、一三四、六五〇	二、七七〇、一七八
明治三十三年	八、八〇一、〇〇九	四、〇二五、一五九	明治三十四年	六、九七四、四五七	二、九八九、八三六

明治三十五年	八、六一八、一四一	二、九〇八、八五八	明治三十六年	一〇、三二二、一八七	三、七七七、〇六二
明治三十七年	一一、四九九、八九五	五、一六五、六一一	明治三十八年	一〇、七七六、七六一	三、八二七、一〇八
明治三十九年	一一、三〇四、五九七	三、五七二、六七七	明治四十年	一一、六九三、八二一	三、九〇五、五三三
明治四十一年	一一、六一〇、六六一	三、一七九、八九〇	明治四十二年	一七、〇〇一、二三八	四、六三三、二六一
明治四十三年	一二、九二一、七五一	五、九六二、一八九	明治四十四年	一八、一五〇、三〇一	四、四九二、三三八
大正元年	二四、四三二、七四六	六、〇八〇、五四三	大正二年	一八、〇三二、四三五	四、一九八、九一三
大正三年	一三、一七七、二五一	二、六〇八、〇七六	大正四年	一〇、四六六、五三七	一、七六三、六〇五
大正五年	一六、二五九、七八八	三、〇一九、三七二			

(横濱十二月分を欠く)

抑も世界に於ける需要の多寡は價格に依りて算するよりも反數即ち數量の部を注視するを要す即ち右表中明治二十六年以降の需用數量に依りて期別すれば所謂二十六年頃は創始時代にして三十年以降三十五年までは第二期に屬し三十六年以降四十二年迄は第三期に屬し四十二年以降大正二年までは第四期にして隆盛期なり大正三年以後の減額は普通需用の減退にあらずして大戰亂の餘禍を蒙れるに外ならず  
依之觀之戰時の影響時代を除外すれば麥稈真田輸出開始以來一期毎に其額を順調に増加せるを認識し得可し各期間多少の弛張あるは全く婦人用帽子の流行變遷せる反響に



して男子用原料の需要は殆んど無變化とも評し得可き觀あり

麥稈眞田輸出國別累年比較表(單位萬反)

年次	英	米	佛	獨	濠	伊	香港	白	其他
明治三十一年	三四五	一八八	三七	四	一一	—	八八	—	二
明治三十二年	四一三	一六六	一一	三	二二	—	九五	—	—
明治三十三年	四二六	二八〇	一八	四	二二	—	一一二	—	一五
明治三十四年	三五九	一八二	一六	二五	四一	三	五六	六	九
明治三十五年	三二二	二二八	八六	二〇	三六	九	一三五	六	九
明治三十六年	三九三	二四〇	九九	九四	二七	一五	一五四	四	五
明治三十七年	四八一	二六八	一一八	一三五	四八	八	一六〇	九	二二
明治三十八年	四四二	一七六	九四	一二八	四七	一八	一五一	一一	一一
明治三十九年	四三一	二二九	一一三	二一九	四五	二九	一〇八	一三	三三
明治四十年	四四八	一六八	二〇六	三五七	二七	一三	二八	七	一五
明治四十一年	三四九	三五三	一四五	二二二	三五	三二	二	九	二四
明治四十二年	四九七	五〇七	一九一	四三三	五二	五二	三	一八	四七

明治四十三年	三二五	八八〇	五二七	三九一	四一	五〇	五	二〇	五二
明治四十四年	三八一	五二二	三七九	三七一	四一	五〇	三	三一	六七
大正元年	五一六	八七二	三九二	四三九	二四	八〇	五	七〇	四五
大正二年	三六四	五三九	三八二	二三〇	二〇	一〇三	五	九六	六四
大正三年	三三七	四七七	一九一	一八四	二六	三四	五	二九	三五
大正四年	三〇七	三九〇	二三五	—	三九	三二	—	—	四四

此の輸出比較表に依れば日本産麥稈眞田の主要需要國は英吉利、北米合衆國、佛蘭西及獨逸國にして濠州及伊太利の諸國之に亞ぐ

過去に於て斯の如く將來に於ても亦然る可けん今は獨逸への輸出皆無なるも平和克復の曉には自ら舊態に復すること蓋し疑ふ可くもあらし就中最も注意を要すべきは英國の需要數量なり即ち今より明治三十一年の二昔まで遡りて觀するに其需要額の三百萬反乃至四百萬反均調を保ち五百萬反を超過せるは僅かに大正元年の一年あるのみ而も其の反面に於て三百萬反を降りしことなき一事なり

多年世界經濟界の中心地點として流行の發源地として目せらるゝ大英國の需要の此の如く不動不變なるは同國の風潮の鞏固なるを語り且つ世界列強の需要の永久不變を暗



示せるものなり況して今頃戦争に於て日本は聯合國側に参加せるに依り聯合國民の友情厚く需要も一層増加すべきを確信す況んや南米發展し亞弗利加開發し或は印度支那の文明的革新を來し文明の風習に染み數億萬のヒンドウ唐人等しく戴帽橫行するの盛觀東亞の天地を風靡する概あるに於てをや  
 麥稈眞田の前途悲觀せんと欲するも能はざるなり恐る可きは邦人の一時の利を見るに急にして粗製濫造の弊風改まらざるにあり貿易業者の商業道德皆無なるにあり鑑みざる可からず

#### 四、岡山縣眞田生産額

年次	生産反數	價格	年次	生産反數	價格
明治二十六年	二七六、七六九	九二、三六三	明治二十七年	一、二二六、一三三	四五八、三四一
明治二十八年	二、六二四、七六三	九八四、七二七	明治二十九年	五、一八〇、二四四	一、二九四、七二七
明治三十年	三、〇〇六、二四八	一、〇四三、九八一	明治三十一年	四、〇五〇、三七八	一、一九〇、六〇四
明治三十二年	五、四六三、四九四	一、七七二、八〇七	明治三十二年	五、〇七三、七五〇	一、七九六、五一五
明治三十四年	四、二〇五、九二五	一、五五二、二三四	明治三十五年	四、二一八、八二五	一、二六八、七九一

明治三十六年	六、三八五、五〇七	二、五二二、六五八	明治三十七年	七、六五四、四二五	一、九九五、五九一
明治三十八年	六、九〇〇、三七六	一、五七一、二四二	明治三十九年	七、五二二、三九八	一、六三四、一三〇
明治四十年	七、四〇四、九八四	一、五二三、三九九	明治四十一年	六、九〇三、三〇四	一、二〇〇、一八三
明治四十二年	一〇、二九一、三八〇	二、一一二、五九〇	明治四十三年	六、二一九、五三四	一、四七九、五三四
明治四十四年	七、四〇七、〇八五	一、七四七、六三〇	大正元年	一〇、五〇〇、五五〇	二、二〇八、四三〇
大正二年	七、五九四、四三八	一、二九一、二九一	大正三年	四、二七五、七二二	五、六二二、三一六
大正四年	四、四四五、六一八	五、二〇〇、五四三	大正五年	七、一六八、六六八	一、四六五、八九三

本縣に於ける麥稈眞田生産の多寡は右の如く大体に於て輸出額の盛衰に正比例せること勿論なれども詳細に其趨勢を研究すれば生産上其の間に憂懼すべき傾向あるを認む即ち本縣生産反數と輸出反數との歩合近來著しく減少せること是なり今之を略記せば左の如し

#### 輸出總反別に對する本縣生産反別歩合

明治三十年	四割五分	明治三十一年	六割八分	明治三十二年	七割六分
明治三十三年	五割八分	明治三十四年	六割	明治三十五年	四割九分
明治三十六年	四割二分	明治三十七年	五割	明治三十八年	五割三分



明治三十九年	五割一分	明治四十年	五割四分	明治四十一年	四割八分
明治四十二年	三割二分	明治四十三年	二割七分	明治四十四年	四割一分
大正元年	四割五分	大正二年	四割二分	大正三年	三割二分
大正四年	三割二分				

明治三十年以降五六年間は其の歩合五割以上の生産を見三十二年の如きは八割弱てふ盛況を呈し其の後と雖も約半額の生産ある主産地なりしに拘らず過去数年間の歩合頓に低下し二十年以前頃の歩合とは全然其位置を轉換するに至れりこは本縣の生産額減退するに引き換へ他府縣の生産増加せし爲なると本縣に於ては眞田の生産を殆んど自然の儘に任せて顧みざる有様なるに他府縣に於ては巨額の獎勵金を交付し官民一致し其生産を督勵せる結果に外ならざるなり

眞田生産郡市別表

郡市別	組合員數	大正三年數量價格	大正四年數量價格	郡市名	組合員數	大正三年數量價格	大正四年數量價格
岡山市	二二六	一四八、〇〇〇反	八三、四一五反	御津郡	二	三六、八五〇反	一、九五六反
赤磐郡	六八	九、七六九反	一七、四二九反	和氣郡	八二	二、〇二二反	一一八反
		三、八、五〇〇	七、四、五〇〇			一、一五、〇〇〇	九、一〇〇
		二、〇、四〇〇	三、五、三二			五、九八九	四、五八

邑久郡	八九	一三、七〇〇	六、二八八	上道郡	二六	九、三〇〇	一、六〇〇
兒島郡	一、三六六	五三、〇〇〇	四八、〇〇〇	都窪郡	七八二	一、八、〇〇〇	二、〇〇〇
淺口郡	一、六、〇、一五	六、九、九六	五、二、一〇〇	小田郡	八、九七九	二、一、〇〇〇	二、〇〇〇
後月郡	二、二、四三	一、五、二、五七五	一、八、二、七八二	吉備郡	二、一、五八	一、一、三、五、六八七	一、〇、〇、〇〇〇
上房郡	一、七、一	二、一、三、六〇〇	一、三、八、六〇〇	川上郡	四六	一、〇、〇、〇〇〇	六、九、〇、〇〇〇
阿哲郡	二	一、八、九、〇〇〇	一、八、七、五九九	眞庭郡	一	一、〇、〇、〇〇〇	三、五、八、九
苦田郡	三	二、〇、〇、〇〇〇	三、〇、〇、〇〇〇	勝田郡	一	二、三、三、八七	二、七、〇、〇〇〇
英田郡	一	三、〇、〇、〇〇〇	三、〇、〇、〇〇〇	久米郡	一	二、〇、〇、〇〇〇	一、八、七、五
合計	三二、二、〇〇	四、九、九、三、八四四	四、五、八、一、三四七			八〇	七、八
		六、〇、〇、三九五	五、六、八、三二五				

附記 合計數の前表と相違せるは本表中には經木眞田及び麻眞田の少額とを包含せるに因る

由是觀之本縣内生産の最も多きは淺口郡にして小田郡第二位を占め後月上房及び吉備郡之に亞ぐ備前美作の各郡中にも多少の生産あれどもそは近時稍々衰運に傾ける經木



真田にして麥稈真田の製造は極めて寥々たるものなり隣縣香川、廣島、山口及び福岡の如き殆んど範を本縣に採り漸次開發せし後進地なるにも拘らず香川縣は縣全般に普及して其の生産額本縣と伯仲せる盛況なり廣島縣も亦其の半額以上を生産し日に月に隆盛に趣きつゝありとか又鳥取縣氣高郡の如きは本年夏の頃本縣より遙に講師を招聘して新に生産を開始せんとする有様なるに縣下未開始の郡にして遠隔の地よりも斯業の徹々たるものあり當業者の奮勵を望みて止まず

### 五、麥稈真田收支計算

- 一、原料收穫 田圃一反歩實二石出來淺口、小田兩郡の南部地方にて約八十貫目の粗原料を收穫し更に之を精選して先節十五貫目二節十五貫目の原料を得可し  
但し青蒨の麥稈を燻蒸するため硫黄一貫目乃至二貫目を要す硫黄粉の代價は平常貳拾錢内外なれども歐洲戰亂以後六拾錢乃至七拾錢まで昂騰せり
- 二、原料の價格 麥稈真田商況の盛衰に依り相場に高低あれども從來の例に徴し普通左の範圍内を上下せり
- 一、ヤハズの原料一貫目

先節五拾錢乃至壹圓五拾錢

二節參拾五錢乃至七拾錢

二、コピンカタギの原料一貫目

先節四拾錢乃至壹圓

二節參拾錢乃至五拾五錢

### 三、一貫目原料製反數

ヤハズ先節<sup>五</sup>耗合三平 二十二反      ヤハズ二節<sup>五</sup>耗合三平 十五反  
 コピンカタギ先節<sup>三</sup> 單四菱廿反      コピンカタギ二節<sup>三</sup>耗單四菱十五反  
 是に由りて計算すれば一反歩のヤハズ原料を以て四<sup>〃</sup>五耗合三平三百三十反五<sup>〃</sup>六耗合三平二百十五反合計五百五拾反を製し得べくコピンカタギ原料を以て十一<sup>〃</sup>十三耗の單四菱三百反十三<sup>〃</sup>十五耗の單四菱二百二十五反合計五百二十五反を編み得べき勘定なり

### 四、生産工程及び工賃の標準

品 種	原料			工 程					
	代	反價	組賃	普通 職工 特別	品 種	原料	反價	組賃	普通 職工 特別
合二平 <sup>五</sup> 耗	七五 <sup>〃</sup>	二〇〇 <sup>〃</sup>	九〇 <sup>〃</sup>	一、一五反	合二平 <sup>六</sup> 耗	七〇 <sup>〃</sup>	一六五 <sup>〃</sup>	七〇 <sup>〃</sup>	一、一五反
合二平 <sup>八</sup> 耗	五〇 <sup>〃</sup>	一三〇 <sup>〃</sup>	五〇 <sup>〃</sup>	二、〇〇反	單四菱 <sup>三</sup> 耗	五〇 <sup>〃</sup>	一四〇 <sup>〃</sup>	九〇 <sup>〃</sup>	一、〇〇反
單四菱 <sup>廿</sup> 耗	四五 <sup>〃</sup>	一二五 <sup>〃</sup>	五〇 <sup>〃</sup>	一、〇〇反	單四菱 <sup>三</sup> 耗	五〇 <sup>〃</sup>	一四〇 <sup>〃</sup>	九〇 <sup>〃</sup>	一、〇〇反



注意 此の表は原料を生産せざる地方に原料を供給するとしての打算なり故に自家作原料を使用する製造家なれば反價全部の収益あるは言ふ迄もなし  
 現時の如く四五耗合三平貳拾八錢乃至參拾錢十三十五單四菱貳拾錢乃至貳拾參四錢に暴騰せる場合には其の組賃も之に比例して高率を來すべし

五、麥稈真田相場表(神戸市場)

品名種	大正元年					大正二年					大正三年					大正四年					大正五年				
	一月	二月	三月	四月	五月	一月	二月	三月	四月	五月	一月	二月	三月	四月	五月	一月	二月	三月	四月	五月	一月	二月	三月	四月	五月
單四菱	109	115	120	125	130	110	115	120	125	130	115	120	125	130	135	120	125	130	135	140	125	130	135	140	145
單四菱	110	115	120	125	130	115	120	125	130	135	120	125	130	135	140	125	130	135	140	145	130	135	140	145	150
單四菱	115	120	125	130	135	120	125	130	135	140	125	130	135	140	145	130	135	140	145	150	135	140	145	150	155
片九菱	120	125	130	135	140	125	130	135	140	145	130	135	140	145	150	135	140	145	150	155	140	145	150	155	160
片九菱	125	130	135	140	145	130	135	140	145	150	135	140	145	150	155	140	145	150	155	160	145	150	155	160	165
片九菱	130	135	140	145	150	135	140	145	150	155	140	145	150	155	160	145	150	155	160	165	150	155	160	165	170
片九菱	135	140	145	150	155	140	145	150	155	160	145	150	155	160	165	150	155	160	165	170	155	160	165	170	175
片九菱	140	145	150	155	160	145	150	155	160	165	150	155	160	165	170	155	160	165	170	175	160	165	170	175	180
片九菱	145	150	155	160	165	150	155	160	165	170	155	160	165	170	175	160	165	170	175	180	165	170	175	180	185
片九菱	150	155	160	165	170	155	160	165	170	175	160	165	170	175	180	165	170	175	180	185	170	175	180	185	190
片九菱	155	160	165	170	175	160	165	170	175	180	165	170	175	180	185	170	175	180	185	190	175	180	185	190	195
片九菱	160	165	170	175	180	165	170	175	180	185	170	175	180	185	190	175	180	185	190	195	180	185	190	195	200
片九菱	165	170	175	180	185	170	175	180	185	190	175	180	185	190	195	180	185	190	195	200	185	190	195	200	205
片九菱	170	175	180	185	190	175	180	185	190	195	180	185	190	195	200	185	190	195	200	205	190	195	200	205	210
片九菱	175	180	185	190	195	180	185	190	195	200	185	190	195	200	205	190	195	200	205	210	195	200	205	210	215
片九菱	180	185	190	195	200	185	190	195	200	205	190	195	200	205	210	195	200	205	210	215	200	205	210	215	220
片九菱	185	190	195	200	205	190	195	200	205	210	195	200	205	210	215	200	205	210	215	220	205	210	215	220	225
片九菱	190	195	200	205	210	195	200	205	210	215	200	205	210	215	220	205	210	215	220	225	210	215	220	225	230
片九菱	195	200	205	210	215	200	205	210	215	220	205	210	215	220	225	210	215	220	225	230	215	220	225	230	235
片九菱	200	205	210	215	220	205	210	215	220	225	210	215	220	225	230	215	220	225	230	235	220	225	230	235	240
片九菱	205	210	215	220	225	210	215	220	225	230	215	220	225	230	235	220	225	230	235	240	225	230	235	240	245
片九菱	210	215	220	225	230	215	220	225	230	235	220	225	230	235	240	225	230	235	240	245	230	235	240	245	250
片九菱	215	220	225	230	235	220	225	230	235	240	225	230	235	240	245	230	235	240	245	250	235	240	245	250	255
片九菱	220	225	230	235	240	225	230	235	240	245	230	235	240	245	250	235	240	245	250	255	240	245	250	255	260
片九菱	225	230	235	240	245	230	235	240	245	250	235	240	245	250	255	240	245	250	255	260	245	250	255	260	265
片九菱	230	235	240	245	250	235	240	245	250	255	240	245	250	255	260	245	250	255	260	265	250	255	260	265	270
片九菱	235	240	245	250	255	240	245	250	255	260	245	250	255	260	265	250	255	260	265	270	255	260	265	270	275
片九菱	240	245	250	255	260	245	250	255	260	265	250	255	260	265	270	255	260	265	270	275	260	265	270	275	280
片九菱	245	250	255	260	265	250	255	260	265	270	255	260	265	270	275	260	265	270	275	280	265	270	275	280	285
片九菱	250	255	260	265	270	255	260	265	270	275	260	265	270	275	280	265	270	275	280	285	270	275	280	285	290
片九菱	255	260	265	270	275	260	265	270	275	280	265	270	275	280	285	270	275	280	285	290	275	280	285	290	295
片九菱	260	265	270	275	280	265	270	275	280	285	270	275	280	285	290	275	280	285	290	295	280	285	290	295	300
片九菱	265	270	275	280	285	270	275	280	285	290	275	280	285	290	295	280	285	290	295	300	285	290	295	300	305
片九菱	270	275	280	285	290	275	280	285	290	295	280	285	290	295	300	285	290	295	300	305	290	295	300	305	310
片九菱	275	280	285	290	295	280	285	290	295	300	285	290	295	300	305	290	295	300	305	310	295	300	305	310	315
片九菱	280	285	290	295	300	285	290	295	300	305	290	295	300	305	310	295	300	305	310	315	300	305	310	315	320
片九菱	285	290	295	300	305	290	295	300	305	310	295	300	305	310	315	300	305	310	315	320	305	310	315	320	325
片九菱	290	295	300	305	310	295	300	305	310	315	300	305	310	315	320	305	310	315	320	325	310	315	320	325	330
片九菱	295	300	305	310	315	300	305	310	315	320	305	310	315	320	325	310	315	320	325	330	315	320	325	330	335
片九菱	300	305	310	315	320	305	310	315	320	325	310	315	320	325	330	315	320	325	330	335	320	325	330	335	340
片九菱	305	310	315	320	325	310	315	320	325	330	315	320	325	330	335	320	325	330	335	340	325	330	335	340	345
片九菱	310	315	320	325	330	315	320	325	330	335	320	325	330	335	340	325	330	335	340	345	330	335	340	345	350
片九菱	315	320	325	330	335	320	325	330	335	340	325	330	335	340	345	330	335	340	345	350	335	340	345	350	355
片九菱	320	325	330	335	340	325	330	335	340	345	330	335	340	345	350	335	340	345	350	355	340	345	350	355	360
片九菱	325	330	335	340	345	330	335	340	345	350	335	340	345	350	355	340	345	350	355	360	345	350	355	360	365
片九菱	330	335	340	345	350	335	340	345	350	355	340	345	350	355	360	345	350	355	360	365	350	355	360	365	370
片九菱	335	340	345	350	355	340	345	350	355	360	345	350	355	360	365	350	355	360	365	370	355	360	365	370	375
片九菱	340	345	350	355	360	345	350	355	360	365	350	355	360	365	370	355	360	365	370	375	360	365	370	375	380
片九菱	345	350	355	360	365	350	355	360	365	370	355	360	365	370	375	360	365	370	375	380	365	370	375	380	385
片九菱	350	355	360	365	370	355	360	365	370	375	360	365	370	375	380	365	370	375	380	385	370	375	380	385	390
片九菱	355	360	365	370	375	360	365	370	375	380	365	370	375	380	385	370	375	380	385	390	375	380	385	390	395
片九菱	360	365	370	375	380	365	370	375	380	385	370	375	380	385	390	375	380	385	390	395	380	385	390	395	400
片九菱	365	370	375	380	385	370	375	380	385	390	375	380	385	390	395	380	385	390	395	400	385	390	395	400	405
片九菱	370	375	380	385	390	375	380	385	390	395	380	385	390	395	400	385	390	3							



屋宇道期及字佐方を紹介するは是等二字には何れも信用購買販賣組合の設けありて特に真田紐の取扱をなせると生産統計のあるありて調査に便利なりしと其成績の良好にして他の模範とすべき事績顯著なればなり

浅口郡三和村胡麻屋信用購買販賣組合員真田收益及普通貯金額

金額	大正四年度真田收益		大正五年度真田收益		大正四年度普通貯金額		大正五年度普通貯金額	
	年度真田收益	前年度真田收益	年度真田收益	前年度真田收益	年度普通貯金額	前年度普通貯金額	年度普通貯金額	前年度普通貯金額
皆無	六	二	〇	〇	〇	〇	一	一
壹圓以上	八	一	四	四	一	一	一	一
拾圓以上	一〇	一七	三	一〇	一	一	三	一
貳拾圓以上	一二	一六	二	七	八	一〇	一	四
四拾圓以上	一	四	一	〇	四	二	〇	一
六拾圓以上	一	一	一	〇	〇	〇	〇	一
總額	八四	八四	八四	八四	〇	〇	〇	二
總金額	一四八、八四〇	一五五、三六七	四六三、一六一	七七七、〇六六				
一戸平均	一七、八四〇	一八、八九〇	五、五二〇	九、二九〇				

即ち胡麻屋は僅かに八十四戸より成る一小部落なるにも拘はらず昨年如き不況の時すら全年を通じて一戸平均拾七圓四拾八錢の利益を収め今年に入り市價暴騰するや生産倍加僅か半年間に前年度の平均額を越ゆること壹圓壹錢なり主農に熱中し副業に専念するに依り貯蓄せざるもの一戸もなく大正四年末より大正五年六月までの短期に於て一戸平均參圓七拾四錢の増加を示せり而も此の普通の貯金は主として真田生産に従事せし妻女の所有に屬する貯蓄にして戸主としての貯金は別に特別貯金の名目の下に預け入れあり尙是等家族中の學齡兒童は更に若干の學校貯金をなし居れりと聞く豈に盛也とせんや

道木信用購買販賣組合員真田收益及貯金額

金額	大正四年度真田收益		大正五年度真田收益		大正四年度普通貯金額		大正五年度普通貯金額	
	年度真田收益	前年度真田收益	年度真田收益	前年度真田收益	年度普通貯金額	前年度普通貯金額	年度普通貯金額	前年度普通貯金額
皆無	六	〇	九	三	三	四	二	二
壹圓以上	二〇	六	二九	三	三	二	一	一
拾圓以上	二八	二七	一〇	一七	一	二	一	一
貳拾圓以上	二一	三三	一九	一四	一	一	一	一
四拾圓以上	二	八	九	一	一	八	二	二
總額	九〇	九〇	九〇	九〇	九	九	九	九
一戸平均	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇



六拾圓以上

一

一

二

七拾圓以上

一

一

一五

總金額

二、三二八、三七八

三、〇三七、五五〇

四、三七二、七二七

一戸平均

一五、八八〇

二〇、七九〇

二九、九五〇

道木組合の平均産額は、大正四年度に於て胡麻屋に比し壹圓六拾錢少く、大正五年前半期に於て貳圓を凌駕せりと雖も之を平均すれば大差なし貯金額に大差あるが如くなれるものは全部を計上せしと方面を異にして研究的に一部を觀察せしとに依るが爲めなり其の經濟實力に於ては殆んど大同小異なり

淺口郡三和村大字佐方信用購買販賣組合成績

部落戸數

二百三十一組 組合員百五十四人

出資口數

二百七十三

拂込出資額

千參百四拾壹圓四拾五錢

運轉資金

壹萬九千圓

麥稈眞田生産額

壹萬五千百九圓參錢 (大正五年一月ヨリ十一月迄)

一戸平均百圓弱 (尤モ職工約六十人)

普通貯金七千五百八拾壹圓九拾參錢參厘 (全上)

利子年六朱

當座貯金

壹萬六百八拾七圓貳錢參厘(日步壹錢)

比較普通貯金

五千五拾九圓七拾貳錢(大正四年十二月末調)

當座貯金

四千參百八拾七圓六拾五錢

貯金通帳

四百三十枚

前二者と趣を異にせるは組合員數百五十四人に對し貯金通帳の四百三十枚あることなり是れ即ち家族各員の貯金多き所以を示すものなり尙前年度末に比し僅に一箇年未滿の間に於て普通當座貯金の激しく増加せるは米價騰貴も其の一因ならんも其の主因は眞田の好況に基く反響なること蓋し疑を容れず

此の外同村には各部落毎に信用購買販賣組合設置され理事者互に熱烈に業務に従事し負けじ劣らじとの意氣旺盛なるに依り殆んど同様の好成績を挙げつつあり  
斯く農家經濟潤澤富裕なれば組合に預金する人はありても借り人なく胡麻屋組合の如き預金の始末に窮せる程なり従つて購買力強く地所の賣買相場の如き良田は一反步六百圓乃至七百圓良圃と雖も貳參百圓内外なりと而も新に土地を購はんと欲する者の多くは自耕自作の小農なりとか全國を通じて小農中農倒れて將に大農に偏し貧富の懸隔益甚しからんとする趨勢なるに此地方に此好範を示す副業の餘澤も亦偉大ならずや



淺口郡黒崎村沙美尋常高等小學校麥稈眞田競技會成績(八時間執行)

學級	生徒數	組紐尋數	一人平均尋數	學級	生徒數	組紐尋數	一人平均尋數
尋常一年生	三九	四六七尋	一一、〇尋	同 二年生	四〇	八四二尋	二一、〇尋
同 三年生	三一	六〇七	一九、〇	同 四年生	四二	九三八	二二、〇
同 五年生	三四	八八八	二六、〇	同 六年生	四七	一、四五五	三一、〇
高等一年生男	五〇	一、〇四二	二一、〇	同 女	三二	一、〇一四	三一、七
高等二年生男	四二	一、〇五三	二五、〇	同 女	三〇	一、〇一五	三三、八
專修生	一三	五二七	三九、八	合計	四〇〇	九、八三八	二四、六

注意 三十六尋を以て一反分と定む

右競技會は所謂手工時間を利用し立太子奉祝紀念の事業費に充つる準備金調製の爲め且つは麥稈眞田生産獎勵の爲め催されたるものなり此表に由りて觀れば未だ乳臭き尋常一年生が平均十二尋即ち一反の約三分の一の生産力換言すれば既に自活し得らるゝ丈の手腕を有せるを認む啻に同校のみならず淺口郡一般の學齡兒童の生産手腕は之と大差なかるべし其の是ある所以のものは教導の力に依るとは云へ又以て地方に於ける自然的感化力の賜とも謂ふ可きなり

聞くが如くんば斯の如き手藝は絶へず視力と手指との注意と勤勞とを要するに依り學齡兒童の智力體力に悪影響を及ぼす憂ひあるが如くなれどもそは所謂練習時代に於ける短期間のみの問題にして同郡の如く全般に普及し年來練習せる者には敢て何等の悪影響あるを認めずとの觀念を教育者一般に認識するに至れり

淺口郡各小學校生徒貯金額及學校基本金調査表(大正五年九月現在)

校名	生徒數	貯金額	貯金總額	基本金
玉島校	一、三〇七	二三八	五、九二二、一三三	三、二二七、三〇〇
上成島校	三八四	八〇	五、九〇二〇	
第二玉島校	五九六	一〇一	五、〇、一七〇	
第五玉島校	三二一	一一三	一、二三四、七九五	
第六玉島校	四〇四	一一三	六、八五、九一〇	
西浦校	八九八	四〇八	三、六三三、六八八	三、一〇、七六四
弘化校	二七一	五一	一、五二、〇一〇	
連島校	三七八	一七	四、〇七、七二七	
梅山校	一、二七	三〇	一、二二、三一一	一、二二、三一一
河内校	五六二	八六	三、六二、四六一	三、六二、四六一
船穂校	五九七	一一一	一、四〇、七五〇	
柳井原校	九〇二	一八	一、〇七、七〇一	一、〇七、七〇一



允中校	五八七	一二七	三九八、七九〇	七、六二一、〇八〇
徳本校	八四〇	四七九	三、五七八、二八〇	一、〇九二、七三三
竹南校	三〇九	二五〇	一、五六〇、九八〇	一、〇五九、九六七
吉備南校	六〇一	二八八	二、〇二六、一九四	
鴨方西校	七一九	七四	三、一〇〇、〇〇〇	二、八二〇、九三〇
里見庄校	四六七	二七八	一、四五六、六七四	
新庄校	五一九	二六三	九〇七、六四五	一、一五五、〇〇〇
大島西校	四三六	九五	四九三、八三〇	
大島中校	二九三	九五	一、五三八、〇〇〇	一、六二二、七八五
寄島東校	四一六	三四五	四八六、〇〇〇	
寄島東校	三一九	三〇〇	四八六、〇〇〇	二、五八五、四一七
南浦校	四八八	三六二	七、一七、六三〇	
沙美校	二四二	五九	五、一三、一九〇	一、〇〇一、〇〇〇
桃源校	四二二	一四七	一、五五九、一一〇	
本村校	一〇四	三六	一、六四、九〇〇	一、七九、六七〇
六條院校	三五五	一九八	六九七、九二〇	
合計	七三四	二五八	一、三三〇、八一〇	九七三、九二〇
	一五、〇三六	五、五九三	三三、三二六、〇九一	一、九、三二二、一八四

二四

他郡村の成績と比較對照せざれば其批判は出來ざれども郡内就學兒童の三分の一貯蓄を勵行し而も貯金者一人宛平均六圓を有するは異數なる可し此等多額の金必すしも生徒自ら儲け得たるにはあらざる可く種々なる事情伏在せんも貯金と謂ひ學校基本金と謂ひ比較的眞田生産の多く其他の副業の發達せる町村に多きより歸納すすれば其間に密接なる關係の存するあるを推度するに難からず

以上は單に數字上の現はれたる事實に過ぎざれども彼等就學兒童にして自ら稼ぎ得たる金錢を以て文房具若くは其他の日用品を購ひ所謂自營自辨せる隠れたる事實の伏在せる一事に想到せば直接間接に彼等の家庭及び彼等自身の利益の如何に莫大なるかを付度し得ん

淺口郡農産收入額と眞田收益

淺口郡は東西の直徑四里三十一丁南北の直徑三里十五丁に亘り周圍二十三里二丁面積十一方里戸數一萬九千四百四十三戸本籍人口十萬六千四百四人現住人口十萬千六百五十四人一平方里人口九千二百四十一人居住せる人口頗る稠密なる地域なるに耕地は田四千三百七十六町六反畑三千七十一町四反即ち一戸平均三反八畝強の割合なり而も其收入を觀るに



米	九四、〇〇〇 <sub>斤</sub>	麥	八、八〇〇 <sub>斤</sub>
大豆	一、四八七	小豆	一、七七五
蠶豆	一、八二九	蕎麥	二、一五四
粟	四、九〇八	甘藷	一、一六九、八〇〇 <sub>斤</sub>
蘿蔔	九九八、〇〇〇	漬菜	一〇二、五二〇
瓜類	二六、五〇八	除虫菊	一九、二九三
果實	一、一四〇、三七〇	收入總額	三、一一二、九五〇 <sub>円</sub>

之に對する公費負擔額は

耕地々々租	一二〇、九三八、三一四	耕地に係る縣稅	五六、三四六、三六三
耕地に係る村稅	三四、七四三、七六九	平均總額	二二二、〇二七、四三二

(以上最近五箇年平均)

町村歲出決算總額	二八七、二二二、四六三	真田收益	
明治四十三年	九七九、八三八	明治四十四年	一、一二五、〇一四
大正元年	一、二七九、二七三	大正二年	八六一、七二三

大正三年 三七四、七〇一  
 大正四年 三四六、四五九  
 大正五年(見込) 一、〇〇〇、〇〇〇  
 合計 五、九六九、六九八  
 平均 八五二、四二八  
 一戸平均 四二強

以上の生産額と諸稅額とを對照すれば真田收益多き年には耕地々々租を支拂うて尙餘りあり平均額を以てしても殆ど耕地に係る縣稅及び村稅を完備し得べく町村公費のみを辨濟しては尙五拾萬圓内外の餘裕あり

此の如く麥稈真田事業は農村市街を論せず恰好の副業と認められ輸出品中の重要物産と認識さるゝ蓋し偶然にあらざるなり

### 七、麥稈真田原料并真田製作工程

#### A 真田紐原料麥稈の種類

- 真田紐原料として使用する麥稈は概ね左の三種にして各特長を有す
- 一、小鬚傾麥稈 此種は莖質柔靱にして編組中毀損し又は編組後破綻する等の缺點なく莖皮光澤に富むを以て紐面も亦隨て鮮麗麥稈原料中の最良なるものなり
  - 二、矢筈麥稈 此種は光澤及柔靱力共に小鬚傾種に及ばざるも葉鞘内白莖(業語腰と稱す)



長きを以て編組行程回数業語間と云ふ多きとに依り所要稈條の數量少額なると同時に接條箇所の少數なるため編組手数を省く等製紐經濟上有利なるものなり

三、於榮麥稈 此種は莖條殊に細く葉鞘内白莖矢筈種より更に長く且つ此細莖編組上必須の硬度と適度の柔軟力を有するを以て九五平七、九平等の細丸物眞田紐の原料として本種の右に出づるものなし

#### B 麥栽培法

##### 一、土質 土質は砂質壤土を可とし粘質壤土之に亞げり

砂質壤土は雨後の水氣速に放散し且つ空氣の流通佳良なるが故に肥料の分解を容易ならしむると共に其養成分を作物に供給するの力容易なるが故に其莖をして健全に生育せしめ從て風雨に倒さるゝが如き憂甚だ少し然れども此壤土は粘質壤土に比し成熟速にして包皮の枯凋も亦急なるが故に莖と包皮との中間に雨露浸入し俗に云ふ毛浸と稱して細微なる痣痕を生ずる事最も迅速なれば原料採收期に際し格別の注意を要す

粘質壤土は空氣、溫度、水分の關係及吸肥力に於て中庸を得たる最も適當の土質なるも砂質壤土に比し雨露の乾燥速かならざるが故に一朝採收の期を失ふに至らば俗に云

ふべタ浸と稱する大なる斑点を生じ遂に優良なる原料を得ること能はざる結果を見るべし

要するに何れの壤土にても施肥耕耘は勿論採取の時期を誤らざるに於ては佳良なる麥稈を採收し得べきを以て土壤を選択すると同時に採取期を逸す可からず

二、地勢 日陽に面し常に作地の乾燥せる土地を最良なりとす惟ふに日蔭の麥は稈短小にして品質劣等なればなり

三、整地 一般と異りたる點なご要するに土壤が充分乾燥せざれば麥稈短き故に眞田紐に供せんとする麥作地は努めて排水に注意を拂ふべし

四、播種の時期及播量 普通一般の播付時季より一週又は十日間位早蒔と稱し播下するを常例となせり若し如上の時季を遅るゝ時は麥稈の伸長を減する憂あり而して其蒔付量は一反歩に付二升五合乃至三升とす但し澆水選を行ひたるものなり

五、耕耘 一般の耕耘と異ならずと雖も極寒の時季迄には一回の耕耘をなし更に寸斷したる藁を以て麥を覆ひ防寒に備ふることは原料作として第一次の耕耘なり若し之を怠らんか稈の發伸に多大の不利あればなり其他數回の耕耘と除草と壤土の固漆せざる様に注意し且つ出穂數日前杖と稱して麥稈の轉倒を防ぐ爲め高く培ひ尙排水に努



むるを以て常とす

六、施肥方法及其分量 往年より麥作の施肥を元肥追肥の二回とす就中追肥に重きを置きたるも麥稈原料作は全然之に反す即ち普通の土質なれば十に對する六強を元肥と稱する根肥に施し三分弱を二番肥として春彼岸一週日前迄に投ずるを適切なりとす蓋し追肥多きに失すれば成熟を遅延せしめ且つ軀大肥大し苞葉滋殖し殆んど支持し得ざる迄に繁茂し動もすれば微かの風雨にも轉倒し品質を害する怖あればなり最も岡山縣内に於て優良原料地として知られたる淺口郡里庄村字燒山に於ける麥稈施肥は土質花崗岩の分解より成れる砂質壤土にして施肥の保持力に乏しき爲めか一反歩に對し元肥に黒粕一俵(正實十五貫)追肥に黒粕一俵餘(約十七貫)に智利硝石一貫目乃至一貫五百目を混着して施用せり

七、培土式麥作法(淺口郡鴨方村小坂青年團試作) 培土式は其字義の如く麥の成長するに従ひ普通の培土より數等高く土壤を培ひ一は以て風に對する抵抗力を強くし一は以て根部の上節より夥多の細根を出さしめ莖を強健にし善良なる稈及び多量の麥收穫を得る改良法なり

播種 稻の株切りを了へたる後犁き起し三尺程の畦を作り馬鍬を畦上に三四回回轉

して土壤を粉碎し約八寸の間隔を保てる一寸深さの溝二條を作り適宜に播種し少量の土を以て上を覆ふこと普通式と同様なり

一、試作地一反の歩當り左記の如し

- イ 耕作地 田 稻麥の二毛作地      □ 麥種 ヤハヅ
- ハ 播種量 三升      二 蒔付 十一月二十日頃
- ホ 培土 最初の追肥二月二十三日以後に五回高約六寸
- ヘ 施肥 元肥追肥補肥一回宛      ト 蒔取日 五月二十五日頃
- チ 麥收穫高 二石二斗五升      リ 麥稈收穫高 荒八十一貫

精撰稈先節十二貫二節十八貫五百

施肥區分表

肥料名	元肥	追肥	補肥	施肥月日
大豆粕	一〇、〇〇〇 <sup>g</sup>	—	—	十一月二十日
鶏糞	五、〇〇〇	—	—	同
過磷酸	三、〇〇〇	三、五三〇 <sup>g</sup>	—	十一月二十日 一月二十三日
人糞尿	一三、〇〇〇	—	—	十一月二十日



菜種	粗	一	一三、〇〇〇	一月二十三日
硫	安	一	一、〇〇〇	三月九日
木	灰	五、〇〇〇	五、〇〇〇	十一月二十日 一月二十三日

之を要するに普通麥作に比し麥實約四分二三厘の増収あり麥稈に於ては數量は別に増収なき様推測さるゝも品質に於ては頗る良好にして殆んど畑産の夫に匹敵せり

C 調製

真田紐製作工程

麥稈は燻蒸乾燥剪分及脱鞘等の諸作業を経て精程と成り次に條別品別の外現在製産の大部分を占むる化合物單物の二種類に於ては更に割伸壓搾等の諸作業を経たるものを以て始めて紐を編み之を一定の掛枠に巻き結束して製反となすを順序とす

左に其概要を示さん

- 一、燻蒸及乾燥 原料用麥稈は普通成熟せる麥の刈取時期より一週間乃至十日前に於て所謂青刈を行ふ
- 斯くて刈り取りたるものは適宜穂を抜き落し不用部分即ち二節以下若しくは三節以下を切り除き一尺廻り計り小束となし燻蒸小屋に縦に積み込むべく野晒に使用する

燻蒸小屋は田圃中便宜の所に於て地上一尺五寸乃至二尺の所に簀床を設け三面を壁とし前面は開閉自在なる開き戸となせる五六尺平方高さ八尺乃至十尺内外の小屋をたて屋根は粗雑にして多少硫黄氣の漏れ出る様に造るを可とす

而して所謂小屋の簀床の下に竈を据へ一段歩の麥稈に對し一貫乃至二貫の硫黄を焚き七時間乃至十時間燻蒸したる後取り出し地上に薄く擴げ二三日間日光に曝露乾燥すべし

二、剪程及脱鞘 燻蒸乾燥せる麥稈は屋内の二階其の他の濕氣なき所に貯藏し隨時に剪程脱鞘を行ふものなるか其の方法は稈條の第二節若しくは第二節の上部一分乃至五厘の所を剪み分け該上部を包被せる葉鞘を脱し次に第二節次に第一節と遞次如上の作業を施し精程(業語首部と云ふ)となすものにして精程の名稱は第一節の上部を先程と謂ひ第一節の下部第二節の上部を二節程と云ひ第二節の下部第三節の上部を三節程と言ふ

三、條別法 前第二項の作業を終りたる時は先程は豫め下方より上方へ曲尺六寸乃至八寸の長さの所より上部を切除し分條器(業語調線)を用ゐて其太細を區分す

分條器は下底圓孔の大小に依り一号より二号に至る十二種とす



太原料には大概一号乃至七号を用ひ細原料には八号乃至十二号を用ふ其各號の孔径並に舊名稱左の如し

號別	舊來の名稱	穴の直径	號別	舊來の名稱	穴の直径
一号	番外	五、五五	二号	番一	五、〇〇
三号	番二	四、五五	四号	番三	四、一五
五号	大一	三、七〇	六号	小一	三、三〇
七号	二号	二、八〇	八号	三号	二、四〇
九号	四号	二、〇五	十号	五号	一、七五
十一号	六号	一、五〇	十二号	七号	一、二五

**四品別法** 程條の品位等級を別つには甲乙丙の三區劃を成せる箱を用ひ未撰程は豫め該箱の左端區劃内に納め其適否を撰別せるものは他の二區劃内に納む  
 往時は白莖の寸長、色澤の晴曇、痣痕の大小、濃淡等の鑑別標準を混和概括して六等に分つを常とせしが後年原料の採取方法其宜しきを得るに至ると同時に之が鑑別方法も進歩して豫め其用途を定め其用途に適合すべく一定の寸長間に於ける痣痕、色澤等鑑別標準に依り等別するに至り之を三等に分ちしが明治三十八九年の頃に至り青刈採

程法普及し従て鑑別法も一變して概ね上下の二等に分てり

**五割伸法** 編紐莖條は明治十六七年の頃にありては専ら莖筒の儘使用せしが其後技術の進歩と需要の趨勢に伴ひ突割器を以て莖筒を數箇に割截し更に伸展して使用するに至れり

**六、麥稈真田紐製造用具一覽表**

名稱	單價	名稱	單價
分條器	六錢乃至八錢	撰質箱	石油箱若しくは素麵箱の如きものを應用す
突割器	六錢乃至八錢	繰 粹	參拾五錢乃至八拾錢
掛 粹	拾壹錢	樋	四拾五錢乃至八拾錢
ロール	壹圓參拾錢乃至七圓五拾錢		

參考 家族的製造家に使用する器具は分條器二號乃至七號計六個、突割器二號三ツ割五號二ツ割計二個、繰粹一個、掛粹一個、撰別箱一個、是他合三平製造には二號四ツ割同五ツ割同六ツ割五號三ツ割同四ツ割同五ツ割六號四割同五ツ割七號二ツ割同三ツ割各一個宛樋一個を要す



## 八、經木眞田の由來

三六

經木眞田とは木片を薄く削り之を細條となして紐形に編製し帽子製造の原料に供用せらるる物なり蓋し本品の需用せらるるに至りしは製帽術進歩し世人の嗜好變遷するに伴ひ偶然之を使用したるに偶々世の歡迎する所となりたるものと如し

## 九、日本に於ける經木眞田の沿革

由來本邦産麥稈眞田中裂打と稱する種類なりしも製作上に煩累あり従て價格不廉なりしかば河田谷五郎之を嘆き明治廿四年他に其代用たる可き原料を得んとて苦心數閱月遂に同年八月試みに檜を薄片となし麥稈に組み混ぜて一個の眞田紐を創製したり是れ七本打と稱する極めて簡易なるものなりき氏は此標本を携へて横濱居留地百五十七番館レナンド商會を訪ひ彼の地に廻送し歐米市場の需要如何を探らしめしに大に賞賛を博し直ちに買約の報を得茲に試賣の目的を達せり然るに幾許もなく檜薄片は脂臭甚しくして多數人氣に投せざれば寧ろ漂白して送附せば可ならんかとの報に接せり素より檜片の漂白は至難のことなれば再三再四研究をなせしも効果を奏せず全く失敗に終りたり依て終に素資白色にして無臭なる材質を求めんと欲し自家庭前の垂條柳を始めと

し畦畔に拉生せる椴、ソロ樹を伐採して削製を試みたるも此等數種の薄片は時日を経過するに従ひ酸化して淡黄色を呈し皆其用に適せざりき是に於て適材を求めんが爲め千葉縣下に入り俗にハイと稱する樹木を伐り之を薄片となしたるに其色澤間然する所なきも材料極めて僅少にして將來多大の注文に應ず可くもあらず故に更に方向を轉じて群馬縣に入り宮城縣を経て青森縣に到り數旬の間東北の林野を跋涉搜索せしに一日白楊樹の美質なることを發見し試に薄片となしたるに果して色澤善美にして弾力も亦強靱なること迺も檜片の比にあらざりき即ち之を用ひて眞田紐を編製したるに大に海外顧客の喝采を得麥稈眞田の代用品として大に需用せらるるに至れり而して本品創製に際しては未だ其品名定まらず只檜製眞田と仮唱したりしが其後白楊樹製眞田の製造せらるるに及び其原料の形狀本邦在來の經木なる物に酷似せるが故に爾來總ての木製眞田原料を經木と呼び此材料を以て編製したる眞田紐は凡て經木の二字を冠して經木眞田と呼ぶに至れり

## 十、岡山縣に於ける經木眞田の沿革

明治三十四年備後福山の商人清水豊吉なる者川上郡成羽町に工場を設け白楊樹を以て

三七



薄縮と稱する長さ二尺以上の經木を製し原料の儘神戸商館に販賣せしも忽ちにして工場を閉ぢたり然るに同町の藤原俊太郎更に工場を設け眞田を製造し高粱町原田伊之助に販賣せり之經木眞田の起因なり越へて翌三十五年に至り原料を製して高粱成羽の製紐家に販賣し盛に生産するに至れり經木原料は主として白楊樹なりしも漸次變遷して松檜を混用せり俊太郎始めて白木を試用し之を神戸商館に送りしに他の原料に比し優良なるを認識せられ遂に該樹を専用するに至れり斯くて同年中麥稈經木混成品たる四角眞田を製造し更に七猫九猫に變り其他種々の變成品を製造せり當時之が製造に従事せしは主として高粱町及び成羽町なりき就中成羽町内田喜三郎の如きは製家中嶄然頭角を現はせり經木三平は明治三十九年中成羽町藤脇周藏なるもの榮信組の注文を受け初めて製造したる物にして爾來年と共に發展し今や全縣下に亘りて之が製紐に従事すれども近來歐米各國の時流稍廢れたる傾向ある爲め萎靡として振はず

經木眞田輸出額累年比較表

年次	數量	價格	年次	數量	價格
明治二十二年	三五五、三六〇	一三八、一一五	明治三十四年	五五二、三二七	二四四、二三八
明治二十五年	一、三三〇、九八二	四六四、三九〇	明治三十六年	二、九四一、五七五	一、二四六、五九一

明治二十七年	三、〇六〇、一〇〇	一、三三六、八二六	明治三十八年	三、四二五、三八六	一、六二六、八二二
明治二十九年	三、一五〇、九二〇	一、一四三、八五九	明治四十年	三、四一四、〇九五	八八四、二〇五
明治四十一年	二、一五三、三七六	四四五、九二五	明治四十二年	六、五七二、八九一	一、六〇九、三一五
明治四十三年	一、一〇八、一七七	二、八三三、五三二	明治四十四年	一〇、二九九、七二三	一、六七七、八四四
大正元年	二四、五七八、七六一	三、四四四、〇四一	大正二年	九、七七九、〇九七	一、二二一、三六九
大正三年	五、八〇二、四四五	六三九、八九七	大正四年	三、九三一、一四七	三三〇、〇九七
大正五年	五、五九三、五二三	五四八、八八五			

經木眞田輸出額累年比較表(單位万反)

年次	英	佛	獨	白	米	濠	澳	英米	其他
明治三十三年	—	—	—	—	三四	—	—	—	—
明治三十四年	—	—	—	—	四〇	—	—	—	—
明治三十五年	二四	—	—	—	一〇〇	—	—	—	—
明治三十六年	七〇	六	三	—	一九八	—	—	—	—
明治三十七年	一一五	三	—	—	一五七	三	—	—	—
明治三十八年	一九八	—	六	—	九八	一四	—	—	—



年次	数量	價格	年次	数量	價格
明治三十九年	二三五	四	明治三十八年	五五五、七七九	二一六、七五三
明治四十年	二三五	一六	明治三十九年	四四三、〇二六	八一、五七三
明治四十一年	九六	二一			
明治四十二年	三五五	五九			
明治四十三年	七二〇	一一〇			
明治四十四年	六八五	七二			
大正元年	一、四九九	一三四			
大正二年	三六九	二九四			
大正三年	三三七	九一			
大正四年	二五一	四六			

十一、岡山縣經木眞田生産額

四〇

明治四十一年	一、二八三、一〇二	一五、〇〇、四四四	明治四十二年	四、七六〇、九七〇	六四七、九四一
明治四十三年	七、九六九、八一	八六六、四四七	明治四十四年	五、三三三、五八一	五二八、七六〇
大正元年	九、二〇七、四一七	九〇二、六二二	大正二年	二、七七九、九四二	一九七、〇七九
大正三年	六八三、一四二	三七、七七九	大正四年	二九八、三四三	一五、六七九
大正五年	一、〇一五、五六四	八八、八〇五			

十二、生産工程及工賃標準

品種	反價	組賃	工程	
			普通人	特別人
三平五耗	七五	三五	一	二
三平六耗	六〇	二五	一	二
三平七耗	五五	二〇	一	二
七平	八五	四〇	半反	一

十三、麻眞田の沿革

麻眞田は今より十數年前の創始にして伊太利、瑞西及佛蘭の諸國に於て盛に製造且使用



されしが普通品は本邦製の方幾分廉價に供給せらるゝより本邦へ向け注文あるに至りしなり

即ち明治三十九年始めて横濱に於て試験的に製造を開始し少量を輸出せしも生産費の嵩みたるより事業勃興す可くものあらず四十一年に於ける輸出額は僅かに五千圓の少額に過ぎざりき爾來研究練磨の結果技術大に進歩し従て入注年を逐ふて増加するに連れ關東は横濱を中心として大森、川崎、埼玉及江尻地方に關西に於ては神戸を中心とし東は愛知、石川、富山、新潟及福井の諸縣西は岡山、廣島及愛媛の諸縣に勃興し數年ならずして一躍海外輸出品中嶄然頭角を顯はすに至れり

### 十四、岡山縣に於ける麻真田の沿革

明治四十二年六月淺口郡寄島町頃末富吉岡山門田屋敷元操山小學校跡に工場を建て製紐に従事せり越へて大正二年五月組織を變更し大島勇市、勝田商會及び其他の有志と共に同して工場を共和組工場と更め生産を増せし折柄斯業不振のため大打撃を蒙り遂に大正三年五月解散せり此時大島勇市は單獨該工場を繼承し孜孜として製紐に従事し幾多の曲折を経て今日に及べり

其後各地に工場を設けし者多かりしも種々の障害に遭遇し或は休止し或は閉場する者相續で出で現に製紐せる者は岡山市大島勇市、金浦町高橋玉平、寄島町高淵幾太郎及六條院村遠藤兼三郎の四名のみ

麻真田輸出額累年比較表

年次	數量	價格	年次	數量	價格
大正元年	一四、三九七、五二七 <sub>反</sub>	七、二六〇、二六四	大正二年	二四、六二二、九二六 <sub>反</sub>	一〇、〇六五、七〇六
大正三年	二七、〇六六、四一〇	一一、一〇二、三八二	大正四年	三八、一七二、二二五	一一、〇二四、七五五
大正五年	三九、七六三、五八七	一二、五九八、一三八			

麻真田輸出額累年比較表(單位萬反)

年次	英	佛	獨	白	米	伊	埃	英米	濠	其他
大正元年	三九〇	二六五	二一六	五	五二九	二二	四	三	六	一
大正二年	六五二	二三五	一五八	一八	一、二二三	二六	二	六	一五	一六
大正三年	八九八	一九一	一〇八	九	一、四三七	一六	九	二〇	九	一〇
大正四年	一、四五三	三二八	—	—	一、九三八	一一	—	二二	四七	一五



### 十五、岡山縣麻真田生産額

年次	數量	價格	年次	數量	價格
大正四年	一三六、八八六 <small>反</small>	三一、九二四 <small>円</small>	大正五年	二〇九、九二九 <small>反</small>	五八、三三〇 <small>円</small>

### 十六、麻真田工賃調査表

一、機械代價	一臺	十三本打約貳拾參圓	七本打約拾四圓
一、繼糸の工賃	百匁	細 自四拾錢 至五拾錢	太 自貳拾五錢 至參拾錢
一、職工機台扱數	十三本打	五臺	七本打 八臺
收入平均一日九參拾貳錢			

### 一七、結 論

麻真田は極めて輓近に於て海外輸出品目中に頭角を現はし來り年々一千餘萬圓以上の巨額に達せり即ち重要輸出品中の重要なものなり元來麻真田は歐米各國の婦人用帽子原料なれば將來一盛一衰は免れ難きも相當の取引は永久に繼續す可きを確信す然る

に該原料は盡くマニラ産の良麻なり而も製造作業の第一工程たる繫き糸おは家庭の副業に適す可きも第二工程の製紐は純然たる機械工業に属す可きものなれば田舎よりか寧ろ市街地に適する大工業なり

經木は所謂強靱にして丈長の薄片なれば製紐の難易は脆弱なる麥稈の比にあらず頗る容易くして少年少女の手工に最も適當する作業なれども海外の需要額年に依り著しき相違あり價格も近來非常に低廉となり殆んど收支償はざる状態なれば年を通じ年を累ね安んじて此業に従事し得ざる憂あるのみならず此種の原木は備中の北部美作の一部に僅に存在せるのみにして現在と雖も上房川上郡地方の製造家は備後の北部より岡山地方の者は備後若しくは和歌山縣地方より原料の供給を受けつゝある有様なりされは將來に於て需要平調に増加し相當の時價を保つに非らざれば經濟上考慮を要する問題なり

麥稈真田の需要は麻真田の需要に及ばざれども經木真田の需要より遙に優位にして餘りの變動なく而も有利なり外國との商取引も年中不斷行はれて製品の停滯等兩者に比して少し而も原料は實に無盡藏と謂ふも不可なく殊に本縣南部の地は全國中他に比類なき優良なる原料を産する天恵を享く豈に勵ますして可ならんや



即ち國家經濟上將た縣經濟上一般的家庭の副業としては麥稈眞田の生産を獎勵す可きものならずや

## 附 録

### 岡山縣眞田同業組合

本縣麥稈眞田生産事業開始當時は製紐技術に習熟せず販賣の機關未だ全く完備せざりし爲めに貿易市場の信用を得るに至らず明治十九年秋頃高粱地方に於ては斯業殆んど中絶せんとする悲境に陥れり偶々大阪の商人原田伊之助居を高粱町に卜し大に斯業を振興せり越へて明治二十一年原田伊之助宮田良等北部地方同業者に就き組合組織の必要を説き以て製品の改良販路の擴張を計らんとせしも未だ機の熟せざりしたため組合の基礎確立するに至らず粗製濫造の弊甚しく再び本業の不振を來せしも同二十三年の頃より市場の景況稍挽回し尙同二十六年には二節眞田の販路を歐洲に開き爾後年々製産額を増加し北部は高粱を中心として同町近郷に南部は淺口郡に於て寄島、鴨方及西の浦等小田郡に於ては笠岡、金浦等に發展し同二十八年には製産額百貳拾萬圓を越ゆるに至れり然るに不幸にして此年麥收の際霖雨連りに到り精良なる原料を得ること能はざるにも拘はらず海外よりの注文は續々來りて非常の巨額に上りしため忽にして原料の不足を告ぐるに至り粗製濫造の弊再發甚しきに至ては家屋の葺葉を撥き以て其料となす



に至れり此年十一月高梁の有志者組合の組織を主唱し郡衙亦大に勸奨する所あり同二十九年春板倉信古を組長とし原田伊之助を副組長とし上房郡真田組合を組織するに至れり而も一地方の組合に依り其効果を奏せんことの至難なるを以て原田伊之助は地區擴張の必要を唱へて止まず時の郡長松井良哉に説く所ありたり郡長幸に其建議を容れ郡書記谷八藏をして板倉信古原田伊之助と同伴せしめ岡山縣廳に至り主務課長に請願せり尙淺口小田の両郡衙を歴訪して郡長に組合組織の賛同を求む偶々地方有志の起て之に唱和する者あるに至り縣廳亦協力一致して誘掖扶助に努めたり斯くて同三十年一月有志大會を岡山市に開き各郡委員を選定し組合組織の方法に就き審議せんとするに當り重要輸出品組合法案の帝國議會に提出ありしを以て其成行を見るに決せり然るに同年四月第四十七號法律の發布を見るに至りたれば十二月更に發起人會を開き準備畫策同三十一年二月八日發起人惣會を岡山縣廳内に開き同日發起人の認可を受け爾後會合十一回四月二十一日創立惣會を開きたるに議論多岐に涉り會合を重ねること更に三十一回議漸く纏り六月二十一日發起人清水清外二十五名に依り組合の設置及定款の認可を申請し八月二十六日農商務大臣の認可を受け茲に岡山縣麥稈同業組合は創立せられたり

爾來十數有餘年専ら事業の奨励及び粗製濫造の取締りを繼續大に其面目を改めたり然るに流行の變遷に伴はれ麻を以て原料とする帽子用真田市場に顯はれ本縣内にも各所に製造を開始するに至りしかば同製造家加入の手續を了し大正四年三月八日の組合會議の全意を得四月九日主務省の認可に依り岡山縣真田同業組合と改稱し今日に及べり



大正六年四月二十日印刷  
大正六年四月廿三日發行

岡山縣淺口郡三和村大字大谷二百九十八番地  
岡山縣眞田同業組合  
著者兼 理事 戶川專治  
發行者

岡山縣淺口郡三和村大字大谷三百三十番ノ第一地  
印刷者 西平一

岡山縣淺口郡三和村大字大谷三百三十番ノ第一地  
印刷所 大谷活版所



326  
235



終

